

精神科領域専門研修プログラム

■ 専門研修プログラム名：東北大学病院連携施設 精神科専門研修プログラム

■ プログラム担当者氏名：富田 博秋

住 所：〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町 1-1 東北大学病院精神科

電話番号：022 - 717 - 7262

F A X：022 - 717 - 7266

E - m a i l：htomita@med.tohoku.ac.jp

■ 専攻医の募集人数：（ 8 ） 人

■ 応募方法：

履歴書を下記宛先に送付の上、面接の申し込みをしてください。

宛先：〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町 1-1 東北大学病院精神科

担当者：小松浩（医局長）

TEL：022 - 717 - 7262

FAX：022 - 717 - 7266

メールアドレス：psy@med.tohoku.ac.jp

◆提出期限◆

未定（HP [<https://www.psy.med.tohoku.ac.jp/>] 等でご確認ください）

■ 採用判定方法：

統括責任者・医局長が履歴書記載内容と面接結果に基づき、採用の適否を 判断する。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

東北大学精神科は、2016 年に講座開設 100 年を迎えた。高度な臨床から地域医療、多様な研究に至る幅広い領域において、精神医学の発展に多大な功績を残してきた。現在も、医局員は東北を中心に全国で活躍している。

基幹病院となる東北大学病院精神科は、40 床（閉鎖病棟）のベッドを有している。隔離室（9 室）、個室（11 室）が多いのが特徴で、難治例、身体合併症症例、児童思春期症例、器質症例、中毒症例など全てのケースに対応している。専攻医は入院・外来患者の主治医となり、指導医の緊密な指導の元、各種の身体的検査や心理検査を行った上で診断や状態のアセスメントを行い、精神療法、薬物療法を含む治療に携わることで臨床的研鑽を積む。看護師、心理士、精神保健福祉士らと密に連携したチーム医療の中で心理社会的アプローチのスキル、チームワークを遂行する力を身につける。脳波の判読をはじめ各種臨床的スキルについては、体系だった学習やトレーニングの機会を設けている。研修の過程でほとんどの精神疾患や精神医療保健上の諸問題の予防、アセスメント、治療、支援について、基礎的な知識を習得するだけでなく、最先端の知識やより有効な診療技術の開発に関わる研究にも触れながら研修生活を送ることで、キャリアを通して創造的な精神医療を行う土台を築くことができる。

連携施設は、公的な総合病院・精神医療センター、各地域の拠点単科精神科病院といった主要医療機関であり、専攻医はこれらの機関をローテートすることにより臨床医としての実力を向上させつつ、専門医を獲得するのに十分な症例を経験することが可能である。

東北大学精神科プログラムでは、臨床医としての実力向上とともに、リサーチマインドをもった精神科医を育成することを重視している。専攻医には、研修期間の当初から十分な臨床経験を積むとともに、症例検討会や抄読会で積極的に討論し研鑽を重ねてもらう。また、研修期間中に学会や学術集会において症例報告や研究発表を行うことを推奨し、指導・支援を行う。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数：83 人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	7, 614	1, 809
F1	3, 371	612
F2	15, 829	4, 141
F3	16, 392	1, 698
F4 F50	8, 337	418
F4 F7 F8 F9 F50	6, 227	505
F6	1, 428	111
その他	1, 991	97

東北大学病院を研修基幹施設と 25 の研修連携施設とが連携し、一貫性のある研修を提供する。研修連携施設が、3 つの公立総合病院、3 つの公立精神科医療機関、3 つの精神科診療所機能を併設する行政機関、20 の各地域の精神医療を担う民間単科精神科病院と多様な役割を持つ施設から構成されていることは、研修医がキャリア早期に幅広く精神科医としての力量をつけていく上で有用で、また、志向性に対応した研修機会を提供することを可能にしている。

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名：東北大学病院
- ・施設形態：公的病院
- ・院長名：富永 悌二
- ・プログラム統括責任者氏名：富田 博秋
- ・指導責任者氏名：富田 博秋
- ・指導医人数：（ 6 ）人
- ・精神科病床数：（ 40 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	363	12
F1	105	6
F2	430	55
F3	655	61
F4 F50	862	19
F4 F7 F8 F9 F50	99	12
F6	114	4
その他	668	25

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、1,225 床を有する大規模な総合病院であり、臨床研究推進センター、個別化医療センター、課題解決型研究開発実証フィールド「オープン・ベッド・ラボ」を設けるなど、病院をあげて、より有効な次世代の医療の構築に向けて活発に取り組んできている。精神科は、40 床の病床のうち隔離室（9 室）、個室（11 室）が多いのが特徴で、難治例、身体合併症症例、児童思春期症例、周産期症例、器質症例、中毒症例、リエゾン・コンサルテーション、精神科救急（措置入院を含む）など幅広い精神科ニーズに高い専門性を持って応えることができる体制にある。上記の学内の先進医療技術開発の体制や多くの診療領

域と緊密に連携し、また、地域の医療機関や保健機関・自治体と幅広く連携した医療を行っているため、幅広く臨床を経験できることが特徴である。また、専門外来として、早期精神病外来、児童思春期外来、周産期外来なども行っており、専門的な治療を経験することも可能である。毎週月曜日、火曜日に症例検討会や抄読会など幅広いテーマに関して勉強会を開催しており、専攻医は臨床、研究、教育など多面的な研修を行うことが可能である。

B 研修連携施設

① 施設名：

医療法人菅野愛生会 こころのホスピタル・古川グリーンヒルズ

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：傳法 陽子
- ・指導責任者氏名：青嶋利明
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 240 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	741	106
F1	29	8
F2	560	164
F3	654	85
F4 F50	640	31
F4 F7 F8 F9 F50	1059	47
F6	18	3
その他	98	5

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 240 床の精神科病棟を有する精神科専門病院であり、うつ病、認知症、摂食障害、児童精神科と多彩な疾患、症例を経験することが可能である。また、措置指定病床も有し精神鑑定も含め司法精神医学にも取り組んでいます。

② 施設名：

医療法人有恒会 こだまホスピタル

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：虎岩 武志
- ・指導責任者氏名：虎岩 武志
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 330 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1669	211
F1	144	25
F2	1195	172
F3	2405	156
F4 F50	2158	34
F4 F7 F8 F9 F50	2374	49
F6	41	3
その他	109	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

多彩な症例が多く、外来診療には力点を置いています。MRI、CT 等をはじめとする各検査機器の充実が診断に威力を発揮し、オーペンの医師が指導にあたります。入退院は月 50～60 件あります。宮城県認知症疾患医療センターの指定を受けております。

③ 施設名：

医療法人朋心会 旭山病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：山崎 尚人
- ・指導責任者氏名：近藤 等
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 100 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	611	38
F1	63	4
F2	217	91
F3	233	26
F4 F50	148	0
F4 F7 F8 F9 F50	70	10
F6	7	0
その他		

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 100 床の精神科単科病院である。地域密着型の病院である。

近隣の市と町の認知症相談機関になっており、認知症の新患が多いが、2016 年 3 月 1 日に宮城県認知症疾患医療センターの指定を受け、今後ますます認知症の診断、治療について実践的な経験を積むことが可能である。

④ 施設名：

独立行政法人国立病院機構 花巻病院

- ・施設形態：独立行政法人国立病院機構
- ・院長名：八木 深
- ・指導責任者氏名：八木 深
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 144 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	65	39
F1	30	20
F2	40	125
F3	71	64
F4	133	20
F5	1	1
F6	0	1
F7	27	4
F8	18	4
F9	6	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

花巻病院は、精神科専門研修プログラムの一端を担い、岩手県で地域の中核病院として精神科救急を実践し、児童から老人まで幅広い疾患を扱い、保健所と連携し都市部とは異なる地域の訪問・往診医療を実施し、精神鑑定と医療観察法医療を実践し、専攻医が研修できる明確な専門性を有し、テレビ会議システムで、クルブスを実施している。花巻病院の専門研修指導医は、精神科救急、法と精神医学に高い専門性を有し、指導医の指導の下、精神科救急症例、mECT 実施とクロザリル処方やアルコールリハビリプログラムなど一般精神医療に加え、医療観察法入院医療の実際や精神鑑定の実際を経験できる。

⑤ 施設名：

医療法人仁医会(財団) 釜石厚生病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：植松 美行
- ・指導責任者氏名：植松 美行
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 204 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	29	22
F1	20	17
F2	415	181
F3	309	24
F4 F50	156	5
F4 F7 F8 F9 F50	12	1
F6	0	0
その他	26	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院の主たる対象となる釜石医療圏においては、人口減少と少子高齢化が進行しており、相対的に認知症を含めた老年期精神障害が多いが、当院としては、不登校をはじめ思春期の問題から高齢者の疾患まで、統合失調症はもとより多様な疾患に幅広く対応している。また、震災と被災後の生活からのストレスを背景としたうつ症状などへの診療も積極的に行っている。さらに、当法人が運営している地域活動支援センターやグループホーム、その他の共同作業所、就労支援施設などとも連携して、社会復帰と地域生活支援にも力を入れている。

⑥ 施設名：

岩手県立南光病院

- ・施設形態：公立単科精神科病院
- ・院長名：稲富 浩
- ・指導責任者氏名：村川 泰徳
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 359 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	189	39
F1	136	15
F2	2051	350
F3	504	78
F4 F50	258	30
F4 F7 F8 F9 F50	225	9
F6	42	6
その他	164	12

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

岩手県立の精神科単科の病院です。一関市を中心とした両磐地域（一関市および平泉町）の唯一の精神科入院施設で、この地域の精神科医療を担当しつつ、岩手県精神科救急医療体制において県南圏域の常時対応施設となっています。このため症例が豊富にあり、措置入院症例から児童思春期の症例まで幅広い経験が可能です。「両磐精神医療連絡会」を開催し顔の見えるネットワークづくりを行っていることから地域との関係が良好です。この関係を通して長期入院者の地域移行を積極的に行っています。県立の総合病院である岩手県立磐井病院が隣接していることからリエゾン・コンサルテーション精神医学の体験が可能です。クロザリル、LAI 剤などによる薬物療法にも力を入れています。

⑦ 施設名：

宮城県子ども総合センター

- ・施設形態：行政機関・診療所
- ・院長名：佐藤 美和子
- ・指導責任者氏名：佐藤 美和子
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	0	0
F1	0	0
F2	7	0
F3	14	0
F4 F50	156	0
F4 F7 F8 F9 F50	698	0
F6	13	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、児童精神科の公的機関・診療所です。初診年齢を 15 歳以下に限定している関係上、対象疾患も偏っております。が、一般精神科では経験出来ない多くの症例を経験出来るメリットがあります。また、当院では、全国でも珍しい子どもデイケア（対象：中学生以下）を行っております。また、自閉症家族教室（年2クール）もおこなっております。 また、当院は、宮城県中央児童相談所と同じ建物内にあり、連携を取って、子ども達のケアに当たっております。

⑧ 施設名：

宮城県精神保健福祉センター

- ・施設形態：行政機関・診療所
- ・院長名：小原 聡子
- ・指導責任者氏名：小原 聡子
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	0	0
F1	0	0
F2	8	0
F3	5	0
F4 F50	10	5
F4 F7 F8 F9 F50	1	0
F6	0	0
その他	1	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

宮城県精神保健福祉センターは、精神保健福祉法に基づき設置されており、県の精神保健福祉における三次機関として仙台市を除く市町村を管轄する行政機関である。精神保健医療福祉の充実を目指して、資源の少なかった県北の大崎市に設置された経緯がある。当診療所は宮城県精神保健福祉センターに併設しており、精神科デイケアも併設している。デイケアは若年層を対象としており、就労の前段階として生活リズムや対人スキルの習得などの支援を中心に行っている。また、当センターでは宮城県ひきこもり地域支援センターを担っており、相談業務に加えて当事者の居場所支援としてフリースペースを、家族支援として家族教室を実施しており、回復の段階に合わせた支援を提供している他、地域のネットワーク作りにも力を入れている。地域精神保健活動としては、研修会等による人材育成から地域の処遇困難例に対するスーパーバイズ等の技術支援、自治体での精神保健福祉相談まで幅広く行っている。これらの活動を通して、東日本大震災後の住民の心の健康作りを考えてゆくことは当センタ

⑧ 施設名：

一の大きな課題である。なお、精神医療審査会、精神障害者福祉手帳及び自立支援医療の判定に関する法定業務も行っている。当センターは、このように幅広い活動を通じて地域精神保健医療福祉における精神科医師の役割を学ぶ事ができる機関である。

⑨ 施設名：

宮城県立精神医療センター

- ・施設形態：公立単科精神科病院（宮城県立病院機構）
- ・院長名：角藤 芳久
- ・指導責任者氏名：大野 高志
- ・指導医人数：（ 7 ）人
- ・精神科病床数：（ 258 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	64	11
F1	41	9
F2	1669	364
F3	558	135
F4 F50	297	18
F4 F7 F8 F9 F50	86	8
F6	16	7
その他	114	25

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は宮城県内唯一の精神科救急基幹病院として、スーパー救急病棟（精神科救急入院料病棟）を 2 病棟（99 床）有している。精神疾患に対する救急医療を研修できるのが当院の最大の特徴である。また、昨年からは児童精神科ユニット（14 床）を開設して入院治療にも対応できるようになっており、発達障害から精神病圏まで幅広い疾患の児童思春期精神医学を研修可能となった。さらに、活性度の高い心理社会的治療（精神科リハビリテーション）も当院の特徴の一つである。訪問看護ステーションを中心としたアウトリーチ医療も積極的に行っており、スタッフと一緒に利用者宅を訪問したり、利用者と一緒に作業療法やデイケアプログラムに参加したりするなど、多職種チーム医療を学ぶ機会も多い。宮城県内の精神保健相談業務の研修や県立がんセンターと連携したサイコオンコロジー研修も当院の特徴と言える。仙台地方裁判所など司法機関との勉強会も活発に行っており、精神鑑定など司法精神医学の研修も可能である。フットサルやバレーボー

⑨ 施設名：

ル、バドミントン等を行うことができる体育館も完備されており、精神障害者とのスポーツ交流を通してスポーツ精神医学を学ぶこともできる。多彩な疾患と幅広い年齢層を対象として、利用者のより良いリカバリー（回復）を目指して多職種チーム医療を実践している点が当院の精神医療の特徴である。

⑩ 施設名：

医療法人幸仁会 高松病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：高松 幸生
- ・指導責任者氏名：高松 幸生
- ・指導医人数：（ 6 ）人
- ・精神科病床数：（ 239 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1463	425
F1	50	21
F2	274	87
F3	358	41
F4 F50	332	9
F4 F7 F8 F9 F50	124	015
F6	5	0
その他	120	3

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院では急性期治療病棟、精神療養病棟、認知症治療病棟を有し、急性期から慢性期、認知症疾患まで幅広く対応しております。特に認知症に関しては、認知症疾患医療センターの指定を受け、認知症専門外来を開設し、認知症の前段階（軽度認知障害）から重度の認知症まで幅広く治療に関わることができます。認知症の行動・心理症状の治療のため入院となる症例では、地域の医療機関、行政、家族会などの関係機関と密に連携することで、入院から退院後の生活支援まで学ぶことができます。また、当院では毎週医師を含めた多職種職員が集まり診断会議を開催し、新患症例の診断・治療について検討しております。自分が携わっていない様々な症例に触れることができ、多くの診断、治療方針について習得することができます。さらに、CT、MRI を完備し、月 1 回の画像カンファレンスを開催しているため、画像診断についても研鑽を積むことができます。身体合併症を有する症例に関しても、常勤の内科医と連携しながら積極的に対応しており、精神

⑩ 施設名：

疾患のみならず内科的な知識の習得もできます。 指定・併設施設等：認知症疾患医療センター、精神科救急輪番、精神科デイケア、介護老人保健施設、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、グループホーム、在宅介護支援センター、訪問看護ステーション、ホームヘルパーステーション、デイサービスセンター、生活訓練施設、認知症カフェ

⑪ 施設名：

一般財団法人みやぎ静心会 国見台病院

・施設形態：民間単科精神科病院

・院長名：原田 伸彦

・指導責任者氏名：原田 伸彦

・指導医人数：（ 6 ）人

・精神科病床数：（ 289 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	103	15
F1	28	7
F2	783	160
F3	771	101
F4 F50	650	42
F4 F7 F8 F9 F50	166	17
F6	67	9
その他	27	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

歴史ある精神科病院として、統合失調症を中心にした地域医療を展開し、近年は特に地域の社会資源との連携を強化している。一方、うつ病やストレス関連疾患など現代的な病理に対しても、ストレス外来や認知行動療法などを積極的に推し進めている。コメディカルスタッフも充実しており、チーム全体で治療を立案し実施するシステムを構築している。一方、医療観察法による鑑定や検察庁・裁判所からの依頼による精神鑑定例も豊富である。

⑫ 施設名：

医療法人移川哲仁会 三峰病院

- ・施設形態：民間単科精神病院
- ・院長名：連記 成史
- ・指導責任者氏名：連記 成史
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 220 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	391	73
F1	11	7
F2	287	100
F3	150	16
F4 F50	99	6
F4 F7 F8 F9 F50		
F6	13	3
その他	79	3

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、当地方において進行する超高齢化に対応する為、いち早く県北では唯一の認知症治療病棟(50床)を設置。平成23年6月1日には、宮城県指定で初めての認知症疾患医療センターを開設。認知症専門医による医療相談や鑑別診断、認知症ケア専門士等の多職種チームによる診療体制が充実しており、CT・MRI等での画像診断の習得が可能で、精神科専門医を目指す医師にとって充実した研修を受ける事が出来ます。尚、協力型臨床研修指定病院（気仙沼市立病院との連携）になっているとともに、日本精神神経学会及び日本老年精神医学会の専門医取得により、日本老年精神医学会の研修施設としても認定を受け、老年精神医学分野においても研修可能となっております。また、院外の研修と致しましては、地域包括ケアを重要と考え、行政や保健所等との地域連携をしており、東日本大震災後より、アウトリーチ業務、みやぎ心のケアセンターとの連携業務（気仙沼

- ⑫ 施設名：
地域センター長を務める)、従来の精神鑑定業務や保健所の精神保健相談業務なども可能です。

⑬ 施設名：

社会医療法人二本松会 山形さくら町病院

・施設形態：民間単科精神科病院

・院長名：江口 拓也

・指導責任者氏名：横川 信弘

・指導医人数：（ 4 ）人

・精神科病床数：（ 339 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	387	113
F1	146	27
F2	1792	357
F3	1674	224
F4 F50	965	36
F4 F7 F8 F9 F50	40	14
F6	21	7
その他		

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

精神科救急入院棟（年間 330 件）と精神科急性期病棟（年間 200 件）を有し、チーム医療の下に精神科救急医療を実践している。認知症治療病棟もあり、認知症を主とした高齢者医療にも取り組んでいる。近年はリワークプログラムによるうつ病の方の復職支援や児童思春期症例にも力を入れている。また、精神科デイケアや訪問看護、グループホーム、精神科作業所などによる精神科リハビリテーションや社会復帰活動も幅広く行っている。急性期から社会復帰まで、地域の精神科医療の中心的役割を果たしている。

⑭ 施設名：

医療法人吉田報恩会 春日療養園

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：吉田 良利
- ・指導責任者氏名：吉田 卓夫
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 250 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	10	8
F1	1	3
F2	85	107
F3	28	12
F4 F50	11	1
F4 F7 F8 F9 F50	0	2
F6	0	0
その他	12	1

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

慢性期の統合失調症が中心。長期療養が必要なケースを積極的に受け入れている。また、外来・入院ともリハビリ的アプローチに力を入れている。グループホームも開設し、訪問看護等のアウトリーチにより、地域生活を支援している。

⑮ 施設名：

医療法人小島慈恵会 小島病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：小島 照正
- ・指導責任者氏名：小島 照正
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 150 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	27	18
F1	9	1
F2	288	123
F3	393	34
F4 F50	237	1
F4 F7 F8 F9 F50	49	5
F6	2	1
その他	39	1

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

宮城県南の民間単科精神科病院であり、150 床の精神科病床を有する。規模は小さいが、幅広い年代に渡る精神科臨床を対象とする。精神科臨床専門領域指導者を揃えている。アットホームな医局であり、マンツーマン指導も可能である。

⑩ 施設名：

社会医療法人二本松会 かみのやま病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：村岡 義明
- ・指導責任者氏名：佐野 琢也
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 354 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	457	180
F1	42	21
F2	434	230
F3	320	39
F4 F50	568	44
F4 F7 F8 F9 F50	777	64
F6	3	3
その他	320	20

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は歴史的に病棟の開放化を進めてきた精神科病院であり、社会復帰に向けてのリハビリテーション、たとえば作業療法やデイケア、SSTなどを重視した医療を展開してきました。最近の精神医学に対する施策等でも入院治療から外来の治療へ、周辺地域で「心を病んだ方」を支援していくという方向性は当院の根底に流れている考え方と同様と思います。一方、当院の位置する上山市は高齢化率30%超の状況であり、認知症の治療も当院の仕事と考え、上山市、医師会とも協力しながら医療と介護の連携を進めております。扱う疾患としてF0、F2～F4を中心に考えております。現在、上記の医療、福祉の連携を進められる病棟、老人保健施設の建築に着手致しました。精神科救急対応も行いますし、慢性期の患者さんへの対応もていねいに行っているつもりです。いずれにしても「地域とともに、地域に根ざした病院」を目指すことを当院の特徴と考えております

⑰ 施設名：

一般財団法人東北精神保健会 青葉病院

・施設形態：民間単科精神科病院

・院長名：藤本 英生

・指導責任者氏名：藤本 英生

・指導医人数：（ 7 ）人

・精神科病床数：（ 280 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	23	9
F1	19	7
F2	878	330
F3	217	82
F4 F50	51	20
F4 F7 F8 F9 F50	43	17
F6	48	19
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、仙台市内の比較的中心部に位置し、精神科 280 床を有する単科精神科病院です。入院病棟は、精神科急性期治療病棟 53 床（1 単位）、一般精神病棟 59 床（1 単位）、精神療養病棟 168 床（3 単位）の 5 単位となっている。統合失調症、双極性障害を中心に多彩な症例がある。また、外来は、精神科外来 1 日平均 71 名。精神科デイケア、精神科ショートケアも行っている。各種専門医療、地域精神医療に積極的に取り組んでいます。専門医療としては、漢方外来や睡眠外来等の専門外来を行っており、脳波検査、終夜睡眠ポリグラフィー検査等も研修可能です。日本睡眠学会認定医や日本臨床精神神経薬理学会指導医も在籍し幅広く研修可能である。

⑱ 施設名：

仙台市精神保健福祉総合センター

- ・施設形態：行政機関・診療所
- ・院長名：林 みづ穂
- ・指導責任者氏名：原田 修一郎
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	0	0
F1	1	0
F2	48	0
F3	37	0
F4 F50	45	0
F4 F7 F8 F9 F50	3	0
F6	1	0
その他		

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当施設は精神保健福祉法第 6 条に基づいて精神保健及び精神障害者の福祉に関する総合的技術センターとして地域精神保健福祉活動の中核としての機能を備える目的にて設置された行政機関である。また同時に当施設は精神科診療所、精神科デイケアも併設しており、精神科医療機関としての機能もある。地域精神保健福祉活動として、保健所スタッフとともに、精神障害者に対する訪問や往診の経験を行うことができる。そして精神保健福祉法による通報事例に対する措置診察も積極的に行っており、措置診察をすることや診察の陪席をする経験ができる。また精神保健福祉の行政機関であるため精神医療審査会、精神障害者福祉手帳及び自立支援医療の判定に関する業務などについて学ぶことができる。当施設の精神科デイケアでは精神障害者の社会参加、就労支援に力を入れている。また宮城県内で唯一、うつ病による休職者を対象としたリワークプログラムを実施している。そのため精神科リハビリテーションについて実践的経験を行うことができる。

⑭ 施設名：

仙台市立病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：奥田 光崇
- ・指導責任者氏名：佐藤 博俊
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 50 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	300	11
F1	75	8
F2	70	35
F3	55	27
F4 F50	200	8
F4 F7 F8 F9 F50	50	6
F6	30	0
その他	200	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、525 床を有する総合病院であり、身体合併症を併存する精神疾患、救急搬送された自殺企図例を集中的にコンサルテーション・リエゾン精神医学の実践を経験することが可能である。加えて 50 床の精神科病棟を有しており、統合失調症、物質関連障害、気分障害、症状性・器質性精神疾患を含む多彩な身体合併症を入院治療の実践経験を積むことができる。

⑳ 施設名：

医療法人東北会 東北会病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：金 仁
- ・指導責任者氏名：奥平 富貴子
- ・指導医人数：（ 5 ）人
- ・精神科病床数：（ 222 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	5	2
F1	627	127
F2	427	114
F3	526	62
F4 F50	233	19
F4 F7 F8 F9 F50	46	6
F6	157	10
その他	31	6

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、仙台市中心部に位置する都市型の単科精神科病院である。創立 115 年を迎え統合失調症、アルコール依存症を始めとする物質使用障害、気分障害、神経症性障害、摂食障害、パーソナリティ障害と対象疾患は多岐に渡る。入院に関しては、物質使用障害・嗜癖性障害の専門病棟を持ち、アルコール・薬物リハビリテーションプログラムを基盤とし、患者個々の状態に応じ各種集団療法等を組み合わせることができる。気分障害や神経症性障害患者の入院も受け入れており、統合失調症は初発例、急性期・慢性期と多彩である。医療保護入院などの非自発的入院や行動制限を必要とする患者にも対応している。治療としては各種集団精神療法（アルコール、薬物、ギャンブル障害、摂食障害、女性アディクション患者、家族対象）が充実しており、集団力動を活用した支援に力を入れている。また、心理教育プログラムとして物質使用障害やギャンブル障害のワークショップを定期的に開催している。地域連携としては医師やコメディカルスタッフが仙台市の

⑳ 施設名：

みならず宮城県全域の行政機関でスーパーバイズを行う他、「宮城県アディクション問題研究会」では事例検討や講義等の話題提供を通して医療を超えた領域

（行政、教育、司法、福祉）との連携を図っている。また、回復支援施設との連携、相互支援（自助）グループ設立支援など三次予防にも力を入れている。併設施設等：物質使用障害・嗜癖性障害病棟（精神科急性期治療病棟）、精神科作業療法、精神科デイケア（アルコール依存症、女性アディクション患者対象）、訪問看護、精神科救急輪番、カウンセリング機関

② 施設名：

東北福祉大学せんだんホスピタル

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：西尾 雅明
- ・指導責任者氏名：高野毅久
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 144 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	120	29
F1	0	0
F2	35	100
F3	70	50
F4 F50	312	51
F4 F7 F8 F9 F50	486	106
F6	9	11
その他	1	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

急性期対応型の精神科病院として短期集中型の医療を実現し、早期の地域復帰をめざしてきました。東北地方ではじめての児童・思春期の精神科病棟を開設し、院内学級、思春期デイケアを用意してきました。さらに、包括型地域生活支援（A C T）部門を設置して、たとえ重い精神の障害があっても入院をせずに地域生活を送られるような訪問支援活動を展開して来ました。また、薬物治療難治性精神疾患に対する修正型E C Tを実施しています。認知症の症例も数多く、2016（平成28）年度には認知症疾患医療センターを開設致しました。このように、各ライフステージに合わせた専門治療が可能です。

② 施設名：

医療法人菅野愛生会 緑ヶ丘病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：齋藤 秀光
- ・指導責任者氏名：齋藤 秀光
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 291 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	459	43
F1	1055	8
F2	2388	168
F3	3696	166
F4 F50	346	9
F4 F7 F8 F9 F50	408	45
F6	71	11
その他	199	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、仙台市に隣接する沿岸エリア（塩釜市、多賀城市、他 3 町）を医療圏とする単科の精神科病院であり、慢性期、急性期を問わず入院については統合失調症、気分障害等を中心に多彩な症例で経験することが可能である。また、精神科専門療法にも力をいれており、精神科作業療法、デイ・ケア、訪問看護等の稼働率は、県内でも上位に位置している。

②③ 施設名：

いわき市医療センター

- ・施設形態：公立総合病院
- ・院長名：相沢 利武
- ・指導責任者氏名：池本桂子
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）121 （のべ 973）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	9	8
F1	8	20
F2	5	9
F3	19	18
F4 F50	3	7
F4 F7 F8 F9 F50	2	1
F6	1	2
その他	3	6

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 1950 年に設立され、精神科は、常磐病院との合併に際し、2010 年 8 月に精神科医師 1 名が赴任して新設された。2018 年 12 月に新病院いわき医療センターと改称した。福島県浜通り唯一の第三次救命救急センターを有する中核病院であり、現在のところ、精神科は、リエゾン精神医学に特化した形をとり、院内ではリエゾン科と呼ばれている。自殺企図による紹介例はほぼ全例を担当するなど、バラエティーに富んだ症例が経験できる。東日本大震災後は、一時的に女性の自殺企図症例が増加した。女性のメンタルヘルスや連携精神医学について研鑽するためには、よい研修施設である。現在の指導医は、睡眠医療認定医師でもある。ドーパミントランスポーターPET スキャンなどの認知症診断の有用なツールが整っている。スタッフが増員すれば、地域のニーズに応じた専門外来を開設することを視野に入れている。心療内科とは区別される科である。子供のカウンセリングは、小児科を窓口として、心理判定士が担当している。

②④ 施設名：

大崎市民病院

- ・施設形態：公立総合病院
- ・院長名：今泉 秀樹
- ・指導責任者氏名：大室 則幸
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）430 （のべ）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	60	0
F1	10	0
F2	90	0
F3	260	0
F4 F50	240	0
F4 F7 F8 F9 F50	20	0
F6	5	0
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

精神科医・臨床心理士が、診断・治療に取り組んでいる。各種画像検査（MRI, SPECT）や各種心理検査（知能検査, 性格検査）も実施可能である。総合病院内の精神科であることから身体合併症を有する患者に対する診療機能を重視している。このため他科通院中や入院中など身体合併症を抱えた方の精神医療を中心に行い、身体科との連携を重視している。

②⑤ 施設名：

八戸市立市民病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：小野口 豪
- ・指導責任者氏名：小野口 豪
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	7 6	1 8
F1	3 1	1 1
F2	2 5 8	5 1
F3	2 2 5	3 5
F4 F50	3 9 8	1 8
F4 F7 F8 F9 F50	5 0 5	2 4
F6	2 4	5
その他	1 0 5	1 0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 608 床を有する総合病院であり、50 床の精神科病棟を有している。精神科病棟は一般病棟に併設された形の独立病棟で、指定病床はなく、個別開放処遇を取り入れた男女混合閉鎖病棟の構造となっている。当院における精神神経科の位置付けは、「地域医療の 3 次救急基幹病院に設置された小規模有床精神科（地域精神科救急システム輪番日以外でも救急対応）」であり、対象は児童・青年期、成人期、老年期の幅広い年齢層にわたり、その様々な精神障害の理解と治療に当たっている。そのため、一般的精神科と比較し、慢性の統合失調症や認知症、アルコールなどの依存の症例数は少ない。また、地域の精神保健においては、八戸保健所と八戸児童相談所の嘱託業務を担い、緩和ケアや院内外のリエゾン事例はもちろん、他医療機関と緊密に連携して精神障害者の身体合併症事例を積極的に受け入れている。平成 30 年より児童思春期外来を開設している。

3. 研修プログラム

1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門制度の研修手帳にしたがって知識を習得する研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。 1. 患者及び家族の面接、 2. 疾患概念の病態理解、 3. 診断と治療計画 4. 補助検査法、5. 薬物・身体療法、6.精神療法、7. 心理社会的療法など、8. 精神科救急、9.リエゾン・コンサルテーション精神医学、10. 法と精神医学、11.災害精神医学、12.医の倫理、13. 安全管理

年次毎の到達目標は以下通りである。

到達目標

1 年目

基幹病院または連携病院で、指導医とともに統合失調症、気分障害、器質性精神障害などの入院・外来患者を受け持ち、面接の仕方、診断と検査、治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学ぶ。リエゾン回診に同行し、リエゾン・コンサルテーション精神医学を経験する。面接により診断をつけること、良好な治療関係を構築することの重要性を学ぶ。院内の症例検討会や抄読会に参加し、幅広い知識を身につける。精神療法の習得のためのセミナーに参加したり、院内の症例発表会や地方会などの学会にて発表を行う。

2 年目

基幹病院または連携病院で、指導医の指導を受けながら、自ら適切な治療計画を立て、基本的な薬物療法、精神療法を行うことができるようにする。認知行動療法などの基本的考え方と技法を学ぶ。通常の検査に加え、臨床脳波・脳画像のより効果的な活用法を学ぶ。精神科救急に従事して、急性期の対応を学ぶ。依存症患者、離脱症状を呈している患者の診断・治療を経験する。神経症性障害の対応について学ぶ。引き続き院内の症例検討会や抄読会に参加し、幅広い知識を身につける。精神療法の習得のためのセミナーに参加したり、院内の症例発表会や地方会などの学会にて発表を行う。

3年目

指導医から適宜指導を受けながらも、概ね自立して診療できるようにする。連携病院は幅広い選択肢の中から専攻医の志向を考慮して選択する。地域の精神科関連施設において、包括的な心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。児童・思春期精神障害・摂食障害およびパーソナリティ障害の診断・治療を経験する。災害精神医学の基本的な姿勢を学ぶ。触法精神障害者の診察や治療を指導医とともに経験する。院内の症例検討会や抄読会において、より中心的な役割を担う。地方会などの学会にて症例発表を行うとともに、研究に参加する。

詳細は当分野 HP [<https://www.psy.med.tohoku.ac.jp/>] 参照のこと

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」（別紙）、及び、当分野 HP [<https://www.psy.med.tohoku.ac.jp/>]を参照のこと。

3) 個別項目について

① 倫理性・社会性

基幹施設において行われる研修会を他科の専攻医とともに受講する。コンサルテーション・リエゾンを通して身体科との連携を持つことによって医師としての責任や社会性、倫理観などについて学ぶ。他職種を交えた症例カンファランスにおいても社会性や倫理観を学ぶことができる。

② 学問的姿勢

専攻医は最新の知識を習得し、常に研鑽することが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とする。指導医とともに、文献的な調査を行いより深く症例を検討する事を学び、その中で特に興味ある症例については、地方会等での発表や学会誌などへの投稿を行う。

③ コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1) 患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、コンサルテーション・リエゾンといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。

④ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

基幹施設、連携施設において実施されている臨床研究、基礎研究に参加し、その成果を学会や論文として発表する。

⑤ 自己学習

常日頃から文献検索を行い、院内の症例検討会や抄読会に参加する。積極的に研修会や学会に参加し、最新の知識を習得することに努める。

4) ローテーションモデル

典型的には、1年目に東北大学病院をローテートし、精神科医としての基本的な知識を身につける。2～3年目以降には、総合病院精神科や県立精神医療センター、各地域の拠点単科精神科病院をローテートし、身体合併症治療、難治・急性期症例、

児童症例、認知症症例など、急性期医療から地域医療までを幅広く経験する。これにより、精神療法、薬物療法を主体とする治療手技、生物学的検査・心理検査などの検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めていく。これら 3 年間のローテート順については、本人の志向する将来的な専門性に応じて柔軟な対応が可能である。主なローテーションパターンについて、別紙 1 に示す。

5) 研修の週間・年間計画

別紙 2 と別紙 3、及び、当分野 HP [<https://www.psy.med.tohoku.ac.jp/>]を参照のこと。

4. プログラム管理体制について

・プログラム管理委員会

医師：富田博秋（委員長：プログラム統括責任者）

医師：菊地紗耶

医師：小松浩

医師：小林奈津子

医師：富本和歩

医師：佐藤祐太郎

医師：富本和歩

医師：長岡敦子

医師：松木佑

看護師：仲居則子

公認心理師：瀬戸萌

公認心理師：坪田瑠美

精神保健福祉士：田口望

精神保健福祉士：熊谷花のこ

作業療法士：内海裕介

・連携施設における委員会組織

各連携病院の指導責任者および実務担当医にて構成

5. 評価について

1) 評価体制

東北大学病院：富田博秋

こころのホスピタル・古川グリーンヒズ：青嶋利明

こだまホスピタル：虎岩武志

旭山病院：近藤等

花巻病院：八木深
釜石厚生病院：植松美行
岩手県立南光病院：村川泰徳
宮城県子ども総合センター：佐藤美和子
宮城県精神保健福祉センター：小原聡子
宮城県立精神医療センター：大野高志
高松病院：高松幸生
国見台病院：原田伸彦
三峰病院：連記成史
山形さくら町病院：横川信弘
春日療養園：吉田卓夫
小島病院：小島照正
かみのやま病院：佐野琢也
青葉病院：藤本 英生
仙台市精神保健福祉総合センター：原田修一郎
仙台市立病院：佐藤博俊
東北会病院：奥平富貴子
東北福祉大学せんだんホスピタル：高野毅久
緑ヶ丘病院：齋藤秀光
いわき市医療センター：池本桂子
大崎市民病院：大室則幸
八戸市立市民病院：小野口豪

2) 評価時期と評価方法

- 3か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- 研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。
- 1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。
- その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回おこなう。

東北大学病院にて専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

- ・専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価をおこなうこと。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

- ・指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこない評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に役立たせる。

6. 全体の管理運営体制

- 1) 専攻医の就業環境の整備（労務管理）

各施設の労務管理基準に準拠する。

- 2) 専攻医の心身の健康管理

各施設の健康管理基準に準拠する。

- 3) プログラムの改善・改良

基幹病院の統括責任者と連携施設指導による委員会で定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

- (ア) FDの計画・実施

年1回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。